

## ○執筆者紹介

①生年・出身地, ②所属, ③専門領域, ④研究業績, ⑤奄美と関係した活動の順番で掲載しております。

### ■山田 誠 (やまだ まこと)

- ①1946年・香川県
- ②法文学部学部長, 法文学部経済情報学科地域計画講座教授
- ③経済政策
- ④「介護サービスの特性と日独の政策比較」西村周三編『医療白書1998年』日本医療企画, 1998年  
「広域圏交流と地方分権」『KIAC TODAY』九州経済活性化センター, 21号, 1997年  
「過疎地域からの分権社会づくり」鹿児島大学『新しい関係性を求めて』No.3, 2001年
- ⑤平成15年度鹿児島大学大学院人文社会科学研究科公開講座 講師  
大島高校での出前授業(模擬ゼミ)の開催(2004年7月)

### ■神田 嘉延 (かんだ よしのぶ)

- ①1944年・東京
- ②生涯学習教育研究センター長・鹿児島大学教育学部教授
- ③教育社会学(主に農村や僻地の教育やむらづくり)
- ④単著「むらづくりと公民館」高文堂出版  
単著「現代農村と社会教育」高文堂出版  
単著「むらの教育ロマン—へき地からの教育改革」鹿

児島学術出版

その他奄美の教育と文化に魅せられて地域の自立発展の調査研究をしています。

### ■木部 暢子（きべ のぶこ）

- ①1955年・福岡県
- ②鹿児島大学法文学部人文学科人間科学論講座教授
- ③言語文化論
- ④『鹿児島県のことば』明治書院1997年  
『西南部九州二型アクセントの研究』勉誠出版2000年  
「島が残した古態」大修館書店『月刊言語』33-1  
2004年
- ⑤平成15年度公開講座「日本の方言・奄美の方言」担当

### ■北崎 浩嗣（きたざき こうじ）

- ①1960年・佐賀県
- ②鹿児島大学法文学部経済情報学科教授
- ③地域計画論，農業政策論
- ④1)「綾町におけるJAS法改正後の有機認証と総合基金制度」『経済学論集』鹿児島大学経済学会第56号，2002年  
2)「鹿児島の生協とスーパーにおける有機・特別栽培農産物の流通動向」『経済学論集』鹿児島大学経済学会第57号，2002年  
3)「並行在来線先発地域との比較検討からみた“肥薩おれんじ鉄道”」『経済学論集』鹿児島大学経済学会第59号，2003年
- ⑤本プロジェクト事務局員

### ■先田 光演（さきだ みつのぶ）

- ①1942年・沖永良部島和泊町
- ②和泊町社会教育指導員（和泊町歴史民俗資料館勤務）
- ③郷土の民俗と歴史研究
- ④『沖永良部島のユタ』（海風社1989年）  
『沖永良部島の歴史』（自費出版1990年）  
『奄美の歴史とシマの民俗』（まろうど社1999年）
- ⑤沖永良部郷土研究会会長

### ■川上 忠志（かわかみ ただし）

- ①1943年・沖永良部島和泊町
- ②南日本新聞和泊販売所所長（南日本新聞支社局協力員・現地記者）
- ③沖永良部島調査研究（島の戦後史，高倉，農業，自然環境等の調査研究）
- ④沖縄タイムス「唐獅子」コラム執筆（2003年1～6月）
- ⑤鹿児島県推進「奄美群島自然共生プラン」現地調査員，和泊町民教室郷土史講師

## ○公開シンポジウムのご案内

いよいよ和泊町でのシンポジウムが迫ってまいりました。今月号では、当日のプログラム(予定)についてご案内いたします。なお、入場料は無料です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

日時：11月27日(土) 12時30分～18時

会場：和泊中学校あかね文化ホール

### 《プログラム》

#### ○開 会 (12:30)

開催地挨拶：和泊町長

基調講演「奄美自立への展望」：皆村武一(鹿児島大学)

#### ○第1部：研究討論会「歴史・文化・アイデンティティを奄美から考える」(13:20～15:20)

報告者：高橋孝代(芝浦工業大学)、新里貴之(鹿児島大学)、本山謙二(千葉大学)

司会者：前利 潔(鹿児島大学島嶼圏プロジェクト研究員)

#### ○第2部：シンポジウム「奄美の自立と産業戦略」(15:30～18:00)

パネリスト：矢田俊文(元九州大学副学長)、菅沼俊彦(鹿児島大学)、山門健一(沖縄大学)

コーディネーター：山田誠(鹿児島大学)

## ○編集後記

■ 新学期が始まり、大学構内は学生たちの声で賑わっています。真昼の日差しはまだまだ強く照りつけますが、朝夕のひんやりとした空気が、鹿児島の短い秋の到来を感じさせます。(I)

■ 表紙写真は、川上忠志氏（沖永良部郷土研究会員）よりご提供いただいた。中央にあるのは、1400年前後に沖永良部島を支配していたといわれる、世之主の墓。沖縄の戦国時代である三山対立時代から、中山王による統一政権が誕生するまでの時代である。沖永良部島は、北山王の支配下にあった。いまでも民謡、踊り、言語などは琉球文化が濃厚な島。言語で見ると、奄美方言圏ではなく、世之主時代の北山王国の支配圏とかさなる沖縄北部方言圏に属する。

左側は、和泊町国頭にある耳付池（ミンズケ）の写真。隆起サンゴ礁の島である沖永良部島は、乾いた島である。正保国絵図（1644年）には11ヶ所の溜池を確認できるが、その絵図にも耳付池は大きく描かれている。近世末になると溜池は、59ヶ所になっていた。薩摩藩政下で、多くの溜池が造成されている。

現在の沖永良部島の夏の風物詩(?)は、畑にビーチパラソル。右側の写真が、ユリ球根の掘り取り作業の風景である。1900年頃に始まったユリ根栽培は、1931年には全国の三分の一を生産するようになっていた。(前利潔／知名町役場)

研究責任者 山田 誠

奄美ニューズレター

発行 鹿児島大学

編集責任者 萩野 誠

AMAMI News Letter

発行日 2004年11月19日